

# 秋によく鳴いている虫15種

	虫の種類	擬音語	声の特徴 1	鳴く時間帯	鳴く季節	どんな環境にいるか		全国での分布域 2	その他の特徴
						街中	里やま		
木の上によくいる	アオマツムシ	リー、リー、リー...	大きくのびる声。 単調な繰り返し音	夜	晩夏～秋	住宅地、街路樹	田んぼ、畑、林縁、樹木	本州、四国、九州	明治時代に中国から移入したらしい。緑色で後肢が短い。よく飛ぶ
	クサビバリ	フィリリリ...	出だしの調子が特徴的で、あとは単調な連続音。後半単調	夕方～朝	晩夏～秋	住宅地、庭木、生け垣	林縁、マント群落	本州、四国、九州、南西諸島	音の高さがアオマツムシとほとんど同じなので、一緒に鳴くと、ほとんど聞こえない
	カネタタキ	チン、チン、チン...	短く撥ねるような声。 高い	夕方～朝	晩夏～晩秋	住宅地、庭木、生け垣	林縁、マント群落	本州、四国、九州、伊豆諸島、小笠原諸島、平戸島、五島列島、南西諸島	音の高さがアオマツムシに近い
草むらの高い所によくいる	ヒロバナカンタン	ルー、ルー、ルー...	短く切って鳴く声。 少し低め	夕方～朝	夏と秋(8月ごろいったん少なくなる)	住宅地、草丈の高い草むら	田んぼ、畑、林縁、草丈の高い草むら	本州(青森以南)、四国、九州、南西諸島	カンタンによく似ているが、やや前翅が広い
	カンタン	ルルルルルル...	単調な連続音。 少し低め	夕方～朝	晩夏～秋	住宅地、草丈の高い草むら	田んぼ、畑、林縁、草丈の高い草むら	北海道、本州、四国、九州	江戸時代に中国から移入したとい説あり
	ハヤシノウマオイ	スイーッーッーッ	抑揚があり、よくのびる声	夜	晩夏～秋		林縁、マント群落	本州、四国、九州、伊豆大島、薩摩硫黄島、トカラ中之島	肉食が強いので、他の虫と一緒にすると、食べてしまう
	オナガササキリ	ズリスズリス...	単調な繰り返し音。 濁音が入るようなこった声	夕方～朝	晩夏～秋		田んぼ、畑、林縁、草丈の高いイネ科の草地	本州、四国、九州、佐波島、隠岐、対馬、南西諸島	メスの産卵管が体長ほどもあるので、それを「尾」とみなして名前がつけられた
草むらの地面付近	ヒガシキリギリス	チン、ギース	大きい。 濁音が入るようなこった声。 低い	昼、ときどき夜	夏～初秋	住宅地、道路沿いの植え込み	田んぼ、畑、林縁、草丈の高い草むら	本州(青森以南、岡山まで)、淡路島	肉食が強いので、他の虫と一緒にすると、食べてしまう
	スズムシ	メスがいると「リリン、リリン...」 いないと「リー、リー、リー...」	リズム 抑揚がある	夜	初秋～秋	住宅地、石垣	田んぼ、畑、林縁、河床、林床	北海道(帯広)、本州、四国、九州、対馬、種子島	普通に聞かれるのは「がそばにいる「くどき鳴き」1匹で鳴く呼び鳴き」はリー、リー、リー
	エンマコオロギ	メスがいると「ヒリヒリヒリヒリ...」 いないと「ヒリヒリヒリ...」	大きな声で、リズム 抑揚がある	夕方～朝	晩夏～秋	住宅地、草原、庭、市街地	田んぼ、畑、林縁、あぜ道	北海道、本州、四国、九州、伊豆諸島、八丈島、対馬	メスが近くにいるときの「くどき鳴き」は全くと違う鳴き方
	マダラスズ	ジーン、ジーン、ジーン...	単調な抑揚音。 濁音が入るようなこった声	夕方～朝	夏と秋(8月ごろいったん少なくなる)	住宅地、裸地に近い草地	田んぼ、畑、林縁、裸地に近い草地	北海道、本州、四国、九州、南西諸島(奄美以北)	後肢にまだら模様
	ツツレサセコオロギ	リリリリリリリ...	単調な音が延々と続く	夕方～朝	晩夏～秋	住宅地、草原、庭、市街地	田んぼ、畑、林縁、あぜ道	北海道(温暖地帯)、本州、四国、九州、伊豆諸島、対馬	メスが近くにいるときの「くどき鳴き」は全くと違う鳴き方
	ミツカドコオロギ	リリリリリリ、リリリリ...	大きい。 単調な繰り返し音。 金属的で短く撥ねるような声	夕方～朝	晩夏～秋	住宅地、草原、庭、市街地	田んぼ、畑、林縁、あぜ道	本州、四国、九州、対馬、大隈諸島、黒島	メスが近くにいるときの「くどき鳴き」は全くと違う鳴き方
	ハラオカメコオロギ	リリリリ、リリリリ、リリリ...	単調な繰り返し音。 よく4～5音ずつ区切って鳴く	夕方～朝	晩夏～秋	住宅地、草原、庭、市街地	田んぼ、畑、林縁、あぜ道	北海道、本州、四国、九州、対馬、南西諸島(奄美以北)	メスが近くにいるときの「くどき鳴き」は全くと違う鳴き方
	マツムシ	チン、チロ、リン	大きく高い声。 リズムがある。	夜	晩夏～秋		林縁 河川敷	本州、四国、九州、伊豆大島	薄茶色で後肢発達。あまり飛ばない

1 声の高さは、周波数ではなく 耳で聞いた時の印象。  
 2 分布については、鳴く虫セレクション～音に聴く虫の世界』大阪市立自然史博物館・大阪自然史センター編著を参照。